

2020年度北海道NPOファンド「越智基金」・「市民活動支援基金」 助成要項

◆今年度の助成方針

NPO活動助成金（一般公募）応募要項：当基金は、非営利活動団体（NPO）に対して援助を行い、その活動の発展に寄与することを目的としています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、NPOの活動も大きな影響を被り、存続が危ぶまれる団体もあります。危機的状況にあつて、団体の設立趣旨やビジョンを見つめなおし、活動を継続する意欲のある団体に助成します。助成総額を140万円程度、1件あたり助成額を7万円以内とします。

◆2020年選定委員長 田口晃(NPO推進北海道会議代表理事)

「新しい生活スタイルに向けて」

新型コロナウイルスの影響で、市民活動に携わっておられる皆さんも活動が制約され、仕事や生活の変化を余儀なくされていることと推察します。さて、2020年度の越智基金による助成が動き始めますのでお知らせいたします。この間、コロナ禍のなかで医療関係者を中心に過労で困憊される方や、雇い止めや失職で困窮する人が大量にうまれる一方で、新しい生活スタイルというものが唱えられ、試行されてきました。万事にスピードを少し緩め省エネで地球のことや少し質素に暮らすことを考えたり、新旧の生活困難に対してお金の集め方や支援の仕方でも新たな取り組み方を考えたり、仕事以外の生きることの意味や楽しみの発見に注意を向けたり、してきたわけですね。たしかに新しい生活スタイルに改めて立ち向かう時期がきたようです。社会が多様化し、様々な暮らし方が増えることが、物質的な豊かさにとどまらない本当の豊かさを生み出してきたことを、私達はこの20年間、多様なNPO活動の展開を通じて経験してきました。その方向へもう一段階踏み出そうというわけです。

休眠郵便貯金の活用も実際に始まりました。NPOの利用できる資金が増えたのは喜ばしいことですが、事はそれに留まりません。実は改めてNPOにとってお金とは何かを考えさせてくれる機会でもあります。コロナ対策の経済政策もそうです。お金はまわさなければ意味がない。この発想はしばらく前にNPOの世界で検討や実験がなされたエコ・マネーと共通なのです。さらに、コロナ対策の10万円配布はほとんどベーシック・インカムと呼んでよいやり方でしょう。物の生産は地球環境や資源との関係で頭打ち、しかし、既に生活の必要分は満たされている。配分の仕方を工夫すれば世界全体がそれなりに暮らして行ける水準に人類が達した、という条件のもとで出てきたのがベーシック・インカムのアイデアでした。

お金や経済を含めた広い視野、遠くまで届く視力を養って想像力を伸ばしましょう。そうして、これまでは思いつけなかった生き方を発想し、NPOという活動の仕方とつなげていくことで、様々な新しい生活スタイルを模索して行こうではありませんか。

◆2020年選定委員 佐藤隆（北海道NPOサポートセンター顧問）

「越智基金を活用してください」

この基金の提供者である越智喜代秋さんは、北海道教職員組合書記長、札幌地区労議長などを歴任した方です。越智さんの活動は1970年代が中心でした。当時の社会状況の中で労働組合の活動は、社会正義の実現を担うべく期待されていたものでした。特に1970年前後は米国によるベトナムへの無法な侵略戦争が行われ、日本は後方で兵站や野戦病院の機能を担うなど、米国の世界戦略の中に位置づけられ、引きずられている時代状況でした。

札幌でも大通から札幌駅前「ベトナム戦争反対」のデモが労働組合員や「ベ平連（ベトナムに平和を市民連合）」の市民デモが何度も繰り返し行われ、札幌駅前1000人規模の座り込みが行われたこともあります。

結構激しい活動を越智さんは担われた方でした。その後、組合の役員を退任されていた越智さんから遺産の活用について相談を受けた、北教組の顧問弁護士であった上田文雄さんがNPO活動を紹介し、越智さんご自身の遺志として2000万円を超える金額を非営利で広範な市民活動を支える基金として活用することになり、これまで3000万円がNPOに配分されてきました。以来20年経過し残りの基金も少なくなってきたのですが、コロナ禍の中で苦悩している多くのNPOに配分されることは、故人の遺志に添うことになるものと思います。例年の3倍増の資金ですから、多くのNPOの応募を期待しています。

◆「越智基金」の趣旨

元北教組書記長・副委員長で札幌地区労働組合協議会議長を長年務められた越智喜代秋さんが、遺言で遺産の一部をNPO活動に寄贈する旨意思表示されました。1999年から2019年までに延べ445団体に対し2,920万円の助成を実施しています。

◆「市民活動支援基金」の趣旨

2016年、認定NPO法人格取得に伴い、北海道NPOファンドは北海道の非営利公益活動を支援するために「北のNPO基金」を設立しました。「市民活動支援基金」は北のNPO基金の一部門で、越智基金同様、道内NPO団体への助成活動を行います。

◆応募資格 道内で活動しているNPO（NPO法人・任意団体等）を対象とします。

※一般社団法人・一般財団法人は「非営利型」のみ応募可能です。

※公益性のない事業、営利を目的とした事業、政治団体、宗教団体などは助成の対象となりません。

◆助成金額 総額約 140万円（20団体程度に、1団体1万円～7万円の範囲で助成）

◆応募期間 2020年7月6日（月）～7月28日（火）消印有効（17日から変更）

応募方法 応募期間内に応募書類と添付書類を下記提出先までご提出ください。

<添付書類> ① 団体の定款又は会則【必須】

② 前事業年度の事業活動報告書・決算書類【必須】

③ ニュース・会報、団体リーフレット、チラシ等、団体の活動の内容を示す資料（任意）

◆選考方法 書類審査と聞き取りのあと、北海道NPOファンド選定委員会において選考し、助成先を決定します。なお、応募書類受領後、問い合わせをさせていただく場合がございますので、その場合は応答のほどご協力お願いいたします。

◆決定通知 8月中旬（助成先は個別に通知するとともに、北海道NPOファンドホームページ、『北海道NPO情報』等で広報します。応募提出書類は返却いたしません）

◆助成金支払い 8月下旬（予定） ※助成金の振込先は北海道労働金庫（ろうきん）の本支店に限らせていただきますので、ろうきんの口座をお持ちでない場合は、新規に開設していただきます。なお、ろうきんの口座の有無は本件審査の結果とは一切関係ございません。

◆助成金の使途等 助成金の使途について特に制限はありません。事業活動経費、機器整備、人件費等、団体の活動目的を達成するために使ってください。ただし、翌年3月までに実施するものに限りです。

◆活用結果報告書の提出 助成先団体におかれましては、助成金活用後、「活用結果報告書」を提出していただきます。なお、ご了解を得たうえで、北海道NPOファンドホームページやパンフレット等で紹介させていただく場合もあります。

◆お問合せ先／応募用紙提出先 応募用紙の提出は郵送、持参またはメールでお願いします。なお、応募用紙は北のNPO基金ホームページからダウンロードすることができます。

https://npo-project.hokkaido.jp/?page_id=289



認定NPO法人北海道NPOファンド

〒064-0808 札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園201号室

<https://npo-project.hokkaido.jp> メール npo-fund@npo-hokkaido.org

電話 011-200-0973 FAX 011-200-0974 担当：高山